

令和4年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立新津小・中学校運営協議会長

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- 全ての委員が学校運営方針、及び小・中学校の現状について理解しようとし、委員が他の委員の意見を制することなくそれぞれを尊重した関係ができています。
- 協議会に参加することで、学校教育の現状について知ることができた。人材不足や課題が多い中での教員の働き方改革、学力向上のためにできること、不登校や言葉が理解できない生徒への対応等、共有していきたい事案が多くあった。

<評価項目2> 学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか。

- 地域と連携した活動がもたらす子供たちへのメリットを多く感じる。生きていくことの意味やどう生きたいか、そのために今何を知り、学ぶべきか等、夢をもって生きる子になってほしいし、その気づきやきっかけがつけられる支援ができるように感じた。
- 学力や不登校等の生活面、事前に見学させていただいた校内の雰囲気も含めて、学校が取り組んでいることへの理解、これから必要なことについて熟議した。特に、教員の時間的な余裕のない労働環境については、生徒たちの悩みなど、人格形成に必要な相談対応していく負担となっており、改善すべきとの声が多かった。

<評価項目3> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- 今年度は、委員がCSについて理解することに主眼を置き、委員同士が意見を出し合える関係づくりを大切にしました。今後は、学校運営協議会での熟議を受けて、学校と地域のパイプ役となると学校支援コーディネーターの選出をすすめ、来年度はCSの効果をひとつでも残すことができればよい。できれば学校・地域の両方の状況を把握しやすい立場の方をお願いできれば、より地域の力を生かせるのではないかと考える。
- 外国籍児童の日本語教育や不登校児の支援は必要。具体的な方策等を提案していきたい。
- 現場の教員の負担が軽減できるような仕組みを考えたい。子供主体で学べるサポートの仕方や、適したアドバイザーの人材探しが課題。現状から子供ができることを見付け、そこに家庭・地域が加わり、一緒に積み上げていけるような教育活動の方策を協議していきたい。